

20 後醍醐天皇登場～建武の新政

(1) 鎌倉幕府の滅亡と建武の新政

鎌倉末期→幕府は①**得宗専制政治**（内管領：長崎高資）に対する御家人たちの不満・反感
②**悪党**の活動による治安の悪化に直面していた。

また、鎌倉中期以降、天皇家は分裂状態。下記年表参照。

悪党とは、この時代に登場してきた新しいタイプの武士たちのこという。

天皇	政治	戦乱など
亀山	①後嵯峨法皇の死去 ③幕府 面統迭立 を決定 (文保の和談) → 大覚寺統 と 持明院統 が交互に即位	②対立の始まり 亀山天皇 VS 後深草天皇 (大覚寺統) (持明院統) 大覚寺の経済基盤→ 八条院 領 持明院統の経済基盤→ 長講堂 領
後醍醐	① 光厳 天皇擁立（持明院統）1331 ③ 1333 鎌倉幕府の滅亡 北条高時の死 1334 後醍醐天皇 即位 → 大覚寺統 (1) 天皇親政 → 醍醐・村上 を理想 (2) 記録所 再興 (3) 綸旨 の連発	②後醍醐の倒幕計画 (1)1324 正中の変 後醍醐・日野資朝の計画→鎮圧 (2)1331~33 元弘の変 子の 護良 親王らと挙兵→失敗 後醍醐→ 隠岐 配流 →護良親王各地に挙兵呼びかけ 楠木正成 ・赤松則村・名和長年挙兵 →後醍醐天皇隠岐を脱出 幕府 → 後醍醐+悪党攻撃のため 足利尊氏 京都に派遣 足利高氏 ら御家人が幕府離反 尊氏 →六波羅探題攻略 新田義貞 鎌倉攻略

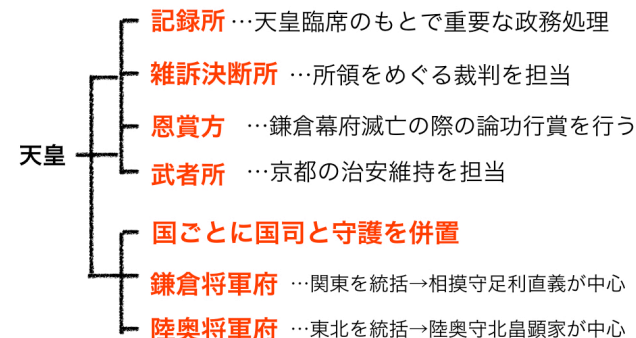
(2) 建武政権の成立

①**天皇専制**（**天皇権力の絶対化**）をめざす…摂政・関白や知行国制を廃止

史料『**梅松論**』…「古の興廢を改めて、今の例は昔の新儀なり、朕が新儀は未来の先例たるべし」…**意味**昔からの伝統を改変し、今の伝統というものもそのはじめは新奇なものだった。私が始める新しいことだって、やがて時間が経てば、先例となり伝統となるだろう！と言ったとされ、**それまでの公家・武家社会での先例や慣習にこだわることなく、新たな政策を断行しようとする姿勢**を示していた。そのうえ、その政治は一貫性を欠いていた。そのため、公家・武士を問わず不満が増大し、政務の停滞や社会の混乱を助長した。梅松論→北朝、反後醍醐の側から描いた本。



不撓不屈



論点

- 妥協的な政治機構
中央機関として、**記録所**と並んで旧幕府の引付をひきつぐ雑訴決断所をおくなど、新政遂行にふさわしい**一元的な機構を整備できなかった**。**摂政・関白廃止、院政廃止**
- 綸旨絶対万能主義**による混乱：すべての決定を後醍醐天皇の綸旨（天皇の意思を最も直接的に示す文書）でおこなったため、**政務が停滞**した。
- 所領政策への不満**：**持ち主が20年以上支配している土地の権利は変更できないという武士社会の法を無視**して、所領の確認を綸旨でおこなうとしたため、武士層が離反した。
- 先例を無視した政治**：綸旨万能主義をかかげて**先例を無視**した後醍醐天皇の政治は、貴族層の反発も招いた。

史料研究 二条河原落書必出史料 出典『建武年間記』

『口遊くちずき去年八月 二条河原落書 云々 元年か（=1334年？）
此頃都二ハヤル物、夜討強盜謀**綸旨**、召人早馬虚騒動、生頸還俗自由出家、俄大名迷者、安堵恩賞虚軍、本領ハナルル訴訟人、文書入レタル細葛、追従讒人禅律僧、**下克上**スル成出物、器用ノ堪否沙汰モナク、モル人ナキ**決断所**…四夷ヲシツメン鎌倉ノ、右大將家ノ掟ヨリ、只品有シ武士モミナ、ナメンタラニソ今ハナル。…』

問1. 史料の落書（らくしよ）を一般に何というか。**二条河原落書**

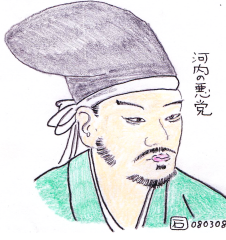
問2 「決断所」とは何か。**雑訴決断所**

混乱→旧幕府方武士は不安→自分たちの代弁者として高氏のもとに集まるようになった。

を否定し、**在地での武士の権益拡大**の動きを支持する**高師直**の対立である。

後醍醐天皇の政治 (1333~1336)

天皇の帰京 (光厳天皇退位)、①護良親王→尊氏警戒し征夷大將軍就任 but 後醍醐拒否 武士社会嫌い

天皇	政治	戦乱
<p>後醍醐</p> <p>吉野へ</p>  <p>1336 京都の尊氏に奥州・北畠顯家来襲、尊氏九州に逃げる、体制を立て直し大軍を率いて京都へ</p>	<p>①1334 建武の新政 天皇権力の絶対化を目指す →醍醐・村上天皇の辞世を理想 ▶建武の新政を批判 ②二条河原落書出る</p> <p>新政への不満→地方武士の反乱として噴出</p>	<p>1334 護良親王→②征夷大將軍解任 後醍醐と離反 足利直義のもと鎌倉配流、翌年殺害 ②1335×中先代の乱信濃で挙兵 先代(北条)後代(足利)の意味 (1)建武の新政への不満 (2)北条時行(高時の子) 挙兵 直義の鎌倉占領 ポイント①鎌倉奪回のため東下の許可・征夷大將軍就任を申請 尊氏征夷大將軍断られる→鎌倉へ時行征伐 ←独断で尊氏 ポイント② ③足利尊氏が鎌倉奪還後、建武の政権を離反→新田義貞を尊氏征討派遣 新田敗れる ④1336×湊川の戦い 足利尊氏 VS 楠木正成 死地に赴くがお前は天皇に仕えよ ポイント③ 1336 尊氏京都制圧→光明天皇擁立 逆賊を避けるため</p>

南北朝の動乱

(1)南北朝の分立

天皇	政治	戦乱
<p>光明</p> <p>吉野へ</p>	<p>①1336 光明天皇即位 (持明院) →朝敵となるのを避けるため ①1338年室町幕府成立 初代將軍 足利尊氏</p>	<p>後醍醐→吉野へ正統主張 ②南北朝の対立 後醍醐天皇 VS 光明天皇 (南朝) (北朝)</p>

(2)動乱の長期化

①室町幕府の内紛

ア **観応の擾乱** 1350~52

室町幕府は当初、**足利尊氏と弟直義が共同して政治を行っていた**が、尊氏の執事高師直と直義との間で対立が激化し、幕府の分裂へと発展した。尊氏が鎌倉で直義を毒殺して乱は終息したが、その後も足利直冬(直義の養子)や旧直義派の有力武士は各地で反抗を続けた。**荘園公領制の維持**を第一に考える**足利直義**と、荘園・公領の領主の権威

將軍	政治	戦乱
<p>初代 尊氏</p> <p>後醍醐の眞福祈るため</p>	<p>1336 建武式目制定 (1)室町幕府の基本方針法ではない (2)二階堂是田らに諮問 南朝があるから京都に在る必要 ②1338 室町幕府の成立 初代將軍：足利尊氏 注意点 建武式目は基本法典ではなく施政方針です。基本法は御成敗式目。 建武以来追加は室町幕府による御成敗式目の追加法。 天龍寺船は天龍寺の造営資金のため足利尊氏が派遣、九条道家が建立した東福寺を修築するため 1323 に派遣された東福寺船が 1976 年になって新安沖で発見された (新安沈船) 1358 尊氏病死</p>	<p>③南北朝の対立 南朝：北畠顯家・新田義貞の敗死 1339 後醍醐死去 「身は吉野の苔になっても、魂は京都の天をのぞまん」 北畠顯家→常陸小田城陥落 「武士は天皇の王民であり、天皇に背けば必ず滅びる」 1348×四条畷の戦い 楠木正行←高師直に敗れる ④1350×観応の擾乱 高師直 VS 足利直義 (執事)(尊氏の弟) 1352 尊氏→直義を毒殺 1354 北畠親房 「神皇正統記」没 神皇正統記は常陸国で書かれた</p>

論点

①**武士社会の変化** 教科書 123P

惣領制の崩壊のなかで、血縁関係を重視しても所領は分割されて分け前は少ない。そこで**地縁によって結びついた小規模な武士集団**が多数形成され、それらが南朝や北朝などと無秩序に提携したり敵対したりしたため、戦闘の日常化・全国化がもたらされた。

こうした武士集団は、秩序に従わない武士として**悪党**と呼ばれた。さらに南北朝時代後半には、地域に深く根をおろして**実力を蓄えた在地の有力武士=国人**が多数登場するのである。

論述研究 南北朝の内乱は何故長期化したのか！東大 2003

A 当時の武士の行動の特徴を、2行以内で述べなさい。

B 南朝は政権としては弱体だったが、南北朝内乱は全国的に展開し、また長期化した。

このようなことになったのはなぜか、4行以内で述べなさい。

(解答例)

A 惣領の統率下に一族として行動する惣領制が崩壊し、個々の武士団がその時々々の利害関係や情勢に応じて敵味方に分かれて戦った。

B 各地の武士団では単独相続への移行に伴って所領支配をめぐる抗争が展開し、室町幕府では足利尊氏・直義の対立が観応の擾乱へ発展して以降、有力守護をまきこんで内部抗争が激しく、それに伴って南朝が京都を占領することもあり、内乱は全国化・長期化した。